

「経営変革の中の次世代オフィス開発への挑戦」

㈱イトーキ マーケティング本部営業戦略部部長兼
オフィス事業部ソリューション推進部部長
加藤 雅士氏

オフィスと都市は似ています。オフィスは街であるという視点で見えてみましょう。人々が活発に動き回って、情報の回転率、情報の流通性の高いオフィスが、生産性が高いオフィスです。生産性が高いオフィスとは、イコール活気がある都市であると考えます。情報の流通性が高いと色々な問題が起こります。とくに情報セキュリティの確保は大問題です。オフィスに都市計画の考え方を導入して適度にコントロールされたオフィスが作れるべきでしょう。

会社で働く意味は、会社に行くと、新しい情報、新しい生きがいを受け取れることにあります。人が街に出かけるのと同じです。そういうオフィスを作ると、いろいろな人たちがオフィスに集結します。そうすると、そういう人たちとの出会いを求めて、さらに多くの人たちが積極的にやってきます。逆に行ってもしょうがないなというオフィスには誰も集まってこないのです。

人が集まってくるのは会社の魅力があるからであり、来たくするような会社は良い会社です。人が集まってくるようなオフィスづくりを心がけてみてはいかがでしょうか。

都市の中心は街路です。そこに人が出てきてわいわいがやがやすることが都市の賑わいです。この街路を、アベニューと呼ぶのですが、アベニューに人がいなくなると都市は死にます。都市計画ではアベニューの賑わいをより高めることに創意を集中します。

出店計画、街路樹、街を散策することによっていろいろな発見があるような仕掛け。そういうアベニューのようなしつらえを、オフィス空間に組み込むとオフィスが活気づきます。賑やかなアベニューから出会いが生まれ、オフィスが楽しくなるのです。

オフィスの中のアベニューを楽しくする工夫をいろいろと考えてみましょう。庇をつくる。ちょこっと座れる椅子を置いてみる。ライブラリー、新刊書、雑誌のコーナーをつくる。大きな机を置いて全然違う人と隣り合って仕事をする。こうしてアベニューが賑わうと情報がより流通して生産性が高まります。

アベニューだけではなくて、会社に広場をつくって人を集めたり、色々な通路にいろいろなコピーを貼り付けたりすることによって、情報発信ができます。そうやって見ていくと、自分の机というのがホームタウンー自分の街ーになるのです。（中略）

フリー・アドレス・オフィスは、コスト効率がとても良いのです。その点では何の問題もありません。ただ次の話はある示唆に富むと思われます。入学したら一年生は自分の机をもらって、2年生、3年生...とその机を使って、6年生を終えてその机をもらって卒業していく。そういう方式をとった小学校がいくつかあります。

そこで起こったことはなにか。自分の机をきれいに使うようになったそうです。そうしない場合は、机は傷だらけで、汚いのが普通です。ですから、使う小学生のほうも、管理する学校のほうも良かったということです。

学校というのは、もともとフリーアドレスでした。ところが、机を決めて所有感もたせるとそれを大事にするようになったという話なのですが、実は会社も一緒かなとも思います。机のあり方は、帰属意識に関係してきます。自分の帰属を示す大切なものが会社にあると思うか、何もなくとりあえず場所だけ借りて仕事をしていると思うのかでは、モチベーションに影響が出るのではないかと思います。

我が社でもフリーアドレスの実験をしているのですが、まだ実験の途上でデータにはなっていません。が、今のところ理論上の効果が出てきていません。スペースが狭くて済むという点からはオフィスコスト削減には最高に良いのですが、社員の帰属意識や創造性への影響に関しては、悪いほうに働くかもしれません。今のところの私はそう実感しています。